

つくべし、或香油にて紙燭をともして、灸炷を先身につけ置て、亥そくの火を付べし、松柏枳橘榆棗桑竹、此八木の火を忌べし、用ゆべからず。

〔伊呂波字類抄雜物〕艾アヤキクサ、亦ヨモキ、五月五日採也。

〔同植物〕艾草アヤハ音作アヤハ

〔令義解軍防〕凡兵士每火アマカ、○中火鑽アマカ一具、熟艾アヤ一斤、四兩、

〔延喜式典藥〕雜給料略○中熟艾一斤四兩、

〔本朝食鑑火類〕艾火

集解、今艾灸者、頻々以手揉艾葉去黑粉令如綿瓦上焙乾揉撚作中豐兩頭尖如大麥粒其大小隨意而造之、此謂燃灸、又揉艾去黑粉細梗如綿放紙上成條卷之令細長、裹艾如筋著此謂一竿、一竿有一錢者有五分三二分者隨意造之、截之作一炷長二三分許脫紙取切艾紙上焙乾用此謂切灸、或糊封外紙截作二三分許艾之輕重亦可隨意用○中予往歲授一異僧傳五月五日採亨麻葉用獨根叢茂者爲好陰乾以手揉之如綿撚之作大炷而灸癰腫初發處至痛難耐而止則不成膿而散雖潰其毒淺易痊予旣試之一兩輩最有奇應焉凡艾葉亦五月五日采之陰乾者佳今以江州膽吹山之艾爲勝野之中禪峯下標地原之艾次之其餘擇而可用之矣、

〔本朝世事談綺五人事〕團十郎。艾。

元祿のはじめ、神田鍛冶町箱根屋庄兵衛といふ者、箱根の温泉酒と稱して、切艾を製す、看板あるひは艾の印に、三つ角の紋を付る、これ市川團十郎といふ芝居役者の紋也、此切艾の製よろしとて、江戸中に流布す、是を倣ひ、所々に切艾の製あり、庄兵衛が印を摸して、おののく三角の紋を付て、三升屋兵庫、市川屋某何など、名をつけて、これを賣也、團十郎がはじめたるにはあらず、

〔本朝食鑑火類〕艾火

集解 本邦灸艾火治百病者用麻油燈火蠟燭火或用水精珠及蠻國火珠向日寫景以艾承之則得